

JCS2020 参加報告

華岡青洲記念病院 山口隆義

皆様こんにちは、華岡青洲記念病院の山口です。今回は、日本循環器（JCS）への参加報告です。JCS はいつも 3 月に開催されており、今年も講演のお話を頂き粛々と準備をしておりました。しかしながら新型コロナウイルス感染症の影響により 7 月 27 日（月）から 8 月 2 日（日）の期間で web 開催されました。

今年の JRC2020 も web で開催されましたが、ほぼ全てのプログラムが電子ポスター形式で、手の空いている時間を利用して多くの発表などを閲覧する事ができました。しかしながら、やはりライブ感には欠けるものだったと思います。一方、JCS2020 では、一般演題を含む全てのプログラムを、リアルタイムもしくは ZOOM を利用したライブ収録映像を web で見る開催方法とし、およそ 1 週間の期間に設定されたプログラムに沿って放映する方法でした。一部オンデマンド配信のプログラムもありましたが、ライブ感のある学会という印象を受けましたので、このような開催方法もありかなという感想を持ちました。ですが、この収録がやっかいで、開催の 1 ヶ月前から各演者や座長の予定を合わせて、土日の貴重な時間を利用して本番と同様の方法でプログラムを進行させて全てのやり取りを収める必要がありました。私は 2 つのセッションの演者およびディスカッションの担当でしたので、2 週間分の週末をこの収録に費やしました。これはこれで、発表者や座長の方々にとって負担が大きかったのかなと思います。どのような web 開催が良いのかはわかりませんが、これから様々な方法を経験しながらより良い方法を見つけていくしかないかもしれませんね。

私が担当したのは、コメディカルセッション「心筋虚血を評価する；FFR-CT および Perfusion imaging」およびチーム医療セッション「循環器領域で役に立つ画像診断」の 2 つのセッションです。そ

それぞれ「心臓 CT での Viability 評価と FFRCT の連関」および「CT における冠動脈および心筋評価の可能性」という内容で講演を行いました。FFRCT はとても期待されている技術ではありますが、厳しい施設基準があるため、これを実践的に使用できる施設は少ないのが現状です。キヤノンが開発している CT-FFR は Vitrea に搭載されるソフトウェアでありオンサイトで解析が可能のため、ONE ユーザーであれば日常臨床で冠動脈の機能的狭窄を評価できるようになります。今後エビデンスをさらに蓄積し保険収載される事が期待されます。

一方で、血管形状を基にした流体シミュレーションでは、狭窄から遠位部の生存心筋量が反映されていないため、心筋バイアビリティも同時に評価する必要があると考えられます。そこで、我々が提唱する SMILIE (subtraction myocardial image for late iodine enhancement) によって CT によるバイアビリティ評価についても報告しました。今後は、CT-FFR と SMILIE がセットで行われる技術になればと考えております。

来年の JCS2021 は横浜開催の予定となっておりますが、どのような形式で開催されるのでしょうか。早くリモートではない face to face での意見交換ができるようになって欲しいものです。

